

令和4年度（2022年度）熊本電子ビジネス専門学校 学校関係者評価結果

1 学校の教育目標

本校の三綱領である「進取」「明朗」「誠実」を教育理念の根幹におき、理事長、校長を中心とした指導体制のもと、スローガンに、時代を生き抜く「高い専門性」と「豊かな人間力」の育成を掲げ、全教職員が一丸となって、日々の一つひとつの教育活動を着実に実践し、常に先を見通す論理性や人間の機微がわかる感性を養い、総合力に富む真の意味で社会に貢献できる人材を育成する。

2 学校関係者評価委員会

- (1) 開催日 令和5年25日(木)
 (2) 時間 午後2:30～午後4:00
 (3) 場所 熊本電子ビジネス専門学校 A館303教室
 (4) 出席者 評価委員 5名(2名欠席、後日資料参加)
 学校側 8名

評価結果

1 教育理念・目標

教育理念、教育目的、教育人材像等については、学生便覧やHPやパンフレット等に掲載し内外に周知している。年度の節目の行事等、機会あるごとに職員や学生への再確認も意識して行っている。今後も引き続き、定期的な検討・検証と、確認・周知を徹底していきたい。

2 学校運営

これまでは、欠員募集という形の採用活動が中心であった。これからは学校の将来像を見据えて、補うという視点だけではなく必要なスキルや資格を各学科で明確化し、将来必要となる人材という点を重視した採用活動を行ってきたい。

3 教育活動

コロナ禍でのオンライン授業の実施で、ICTを活用した授業への対応が不十分であったことがわかった。そこで、まず2つの教室にオンライン接続可能な最新のプロジェクターを導入し、授業の中で使ってみて有効性や活用方法を検証していく。教育方法・評価法については、年2回の授業アンケートが主な評価手段となっているが、今後は、異なる視点により客観的な評価を行い、改善に繋げていけるような体制を整えていきたい。

4 学修成果・教育成果

学修成果、就職、資格取得については、教務部・就職課・事務局が日常的に活発に情報共有し、協力し合って学生を支援する関係性ができている。卒業生の社会的評価については、今のところ定まった把握・記録の体制はない。しかし、担任・科目担当・就職担当・広報担当など在校中に関わりのあった職員を中心に、SNSや学校行事や在校生の就活を通じて情報収集し、ある程度は把握している。今後はそれを、定期的に行い記録していく仕組みづくりを、システム導入も含めて検討していきたい。

5 学生支援

主に担任が窓口となり、まずは学生に十分なヒアリングを行い本人の意志を確認して対応している。内容に応じて他の就職課や事務局とも連絡を密にし連携している。保護者との連絡も欠かさぬよう注力している。卒業生・社会人支援については、これまで卒業生個別の相談を主に元担任が窓口となり受けつけ、就職課等と連携して対応している。これからは職員個人任せではなく、記録・分析の仕組みづくりなど、システム導入も含めて検討していきたい。

6 教育環境

教育環境整備については、電子黒板の導入など、学生がより学びやすい環境を整えている。施設の問題もあり参考図書や関連図書は満足できる設置ができていないが、極力設置場所を確保し、導入を検討していきたい。安全管理については、防火管理者を選任し、避難訓練も実施しており、学生の安全管理については今後も徹底していく。

7 学生の受入れ募集

学生募集は良好。ここ10年でもっとも多い入学者となった。本校の手厚い学生サポートは高校の先生方の本校への信頼度につながっている。高校との信頼関係の構築ができていること、また様々な媒体で学校の魅力を発信できたことなどが出願増につながったと思われる。苦戦していたビジネス系の出願者を増やすことができたことも結果につながった。ただ今後増えてくるIT系の競合他校との差別化を明確にしていけることが必要だと考える。

8 教育の内部質保証システム

教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っているが、個人情報保護については各学校で独自の管理を行っており、統一化されていない。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

9 財務

ここ数年の入学者増により財政基盤が安定化してきて、施設設備投資や待遇改善も実施できるようになってきた。ただ、中長期的な計画についてはまだ不十分であり、今後は3年後、5年後を見据えた計画を作成し、実行できるような体制を整えていく必要がある。